

元日に起きた能登地震に今もインフラの復旧が進まず被害に苦しみ避難生活や寒空のなか復旧作業に取り組んでいる人が多くいる一方、岸田首相は自民党各派閥の裏金問題を曖昧にしたまま軍事費の増額や殺傷武器の輸出容認など戦争準備をすすめています。それは教育に対する国家権力の介入や社会保障費の削減にも及んでいます。明らかな憲法の精神との逆行です。当然、震災被害者にも憲法25条は及ぶべきで9条の精神を堅持し軍事費を削減によって国民が抱えている困難な問題に汎用させるべきです。

ドイツ・イタリアなどの国では侵略戦争に関わった関係者の追放と戦争に反対し弾圧された人たちへの名誉回復と物的保障が行われました。日本では弾圧した立場の者が戦後警察組織だけではなく政治の中枢にまで居直っています。治安維持法体制をきつちり精算して来なかつたことが今日の戦争体制の推進をより容易にしています。

## 国会請願行動・5月15日、署名活動を

石川県本部副会長（署名担当）日元久勝



「不屈」NO.598 付録  
石川版 NO. 355  
2024年4月15日  
治安維持法犠牲者国家賠償  
要求同盟石川県本部  
〒920-0856  
石川県金沢市昭和町5-13  
石川県平和と労働会館2F  
国民救援会石川県本部氣付  
TEL・FAX 076-262-3447

私たち同盟の活動は過去の清算だけでなく今日の政治状況に対峙したもので「新たな戦前」とさせないためかつて治安維持法犠牲者等が、生命を賭して天皇主権の戦争と人権抑圧政策に反対して、平和と民主主義、働く者の暮らしの向上のために闘い抵抗した先人の歴史を発展的に受け継ぎ次の世代に引き渡す役割を担わなければなりません。

同盟は毎年5月署名をもって国会請願を続けています。勿論国会での請願採決を目標としていますが、自民党などは請願行動に門前払いにしていて請願の採択は自公政権の退陣までは困難ではありますが、多くの国民の皆さんに話しかけ戦争推進をやめさせる機運を広げましょう。そのためには

同盟石川県本部は3000筆の署名を目標として取り組んでいますが、ここ数年コロナのため対面での働きかけが困難で活動は停滞しています。また今年は先にあげた能登地震のため当面の大きな問題をかかえ訴えづらい状況にあるかとおもいますが、この運動の広がりが現在の困難な課題解決に繋がることを確信して取り組んでいきましょう。

そのため、同盟会員は

① 自分の所属している各種団体の本部と支部の団体署名(青色の用紙)を訴えてください。

② 個人署名(黄色)を手放さず一人10筆を目標に個人との対面、会合などの場面で訴えてください。

到達点 ● 団体署名 11筆 (新婦人金沢支部・新婦人の会白山支部・日朝協会県支部 原水協石川・非核の政府を求める石川の会・金沢医療生活協同組合・のぞみ保育園・全国保育労働組合石川支部のぞみ分会・年金組合石川県本部・共産党金沢地区委員会材木町支部・国民救援会金沢支部)

● 個人署名 25人 345筆

## 会員からの寄稿

### 「2024年能登半島地震と志賀原発の耐震安 全性」について「講演会(3/9)を受講して

羽咋市在住 三宅美喜子

新潟大学名誉教授の立石先生を招いて開催された「2024年能登半島地震と志賀原発の耐震安全性について」講演会は会場満杯の参加者でした。参加者の皆さん様子から関心の高さと真剣さが伝わってきました。

1月1日に発災した超巨大地震は、私の住む羽咋市余喜地域でも、周りの建物の倒壊、道路の隆起や亀裂、液状化、敷地の亀裂、建物の倒壊など、これまでの地震とはレベルの違う命の危険にさらされました。

能登半島は「20年ぐらいの間に大きな地震に度々見舞われており、「これ以上の地震はないだろう」と勝手に思っていました。

科学的知見に基づいた能登の地形の成り立ちや断層と地震との関係など学んでおれば、能登に大きな地震は来ないという間違った思い込みなどしなかつたでしよう。

立石先生の講演の中心点は、能登半島の地形や地盤がどのようにして形成されたのかを長年の調査研究から説明されました。

志賀原発が建っている地盤は、12～13万年前以降地震による隆起を何度も繰り返してきた地盤。ノッチやベンチの高度分布から6千年以降もⅦクラスの地震を何回か引き起こしてきた。ヤツコカンザシの化石が飛び飛びの複数の高さ

で見つかったことは地震が繰り返し起きていたことを示している。また、原発敷地前面海域の広い岩礁は「く最近の隆起を示している。などなど志賀原発の建っている地盤は地震が何度も起こっていると説明しました。

全国の中位段丘（12～13万年前）の標高20～30mに比較して能登半島沿岸域における中位段丘の標高は120mと異常に高くなっているところもある。立石先生は「地震活動が非常に活発だったことを意味します。千～数千年に1mの隆起、場所によつては倍の高さが繰り返し発生してきたことがわかります」と述べています。

一方、北電と規制委員会は隆起をもたらした断層の活動について、一切検討はしていない。また、ヤツコカンザシ化石の分布については飛び飛びの地震性隆起ではなく非地震性の継続的隆起としている。結局、北電は志賀原発と地震の関係について「安全神話」にしがみついていると画がえる得ない。立石理論とは全く相反している。

今回の地震発生を経験して、私たちはどちらの立場で思考し、行動すべきか、はつきり答えが出た。

立石先生は「原発の最大のリスクは地震」だと述べ、次の5項目にまとめました。

- ① 能登半島地震の教訓を踏まえ、志賀原発は廃炉に
- ② さまままな断層が運動する可能性の評価
- ③ 志賀原発の耐震安全性について評価
- ④ 基準地振動の見直しと耐震補強の再検討を求める
- ⑤ 避難計画の全面的見直しを求める

講演をお聞きし、2月19日の赤旗新聞記事を読み、立石先生グループの地道で息の長い調査研究が地震研究の最

先端の理論だと強く思いました。

羽昨の新婦人の会は立石先生の資料を中心にして一般新聞の地震特集も参考にして3月16日にみんなで学びあいました。① 志賀原発は廃炉に”をメインに据えて②、③、④、⑤の取り組みを進めていくことだと強く考えた講演会でした。



講演する 立石雅昭・新潟大学名誉教授（3月9日）

主催：原発を考える石川女性の会 会場：県女性センター

### 私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

1. 治安維持法体制の復活に反対する
2. 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めるこ
3. 国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

### 国会請願署名（6/1～）

2024年4月1日現在  
個人署名 目標 3000筆  
到達 345筆  
団体署名 目標 250筆  
到達 12筆

### 会員数（4月1日現在）

215名（入1・退1）

## 「能登半島地震」現地からの通信

2024年3月27日 石川県奥能登支部副支部長 坂東正幸

奥能登支部結成1ヶ月後の、元旦午後4時10分、私の住まいの珠洲市を震源とするマグニチュード7の激震が能登半島を襲いました。

会員はもとより多くの方が、家の破損や断水等で住まいができなくなり、避難所や2次避難所、みなし仮設住宅へと避難され、多くの方が金沢近辺で住んでおられます。私も2次避難で金沢駅前のホテルに6月迄おれるようになりました。

県本部会長の尾西洋子さんから「中央本部より見舞の救援金が届いています。被災者の皆さんに届けたいのですが」と連絡を受けました。県本部で被災者への震災要望アンケートの用紙を作成していただき、会員の住所がわかり次第、救援金（見舞金）を届ける準備をしています。幸いなことに全員が無事だったことを喜びたいと思います。

今後、復興に向けた長い道のりですが、互いに励まし合い頑張ります。全国の同盟会員の皆様からのあたたかなご支援、心からお礼申し上げます。

# 谷口善太郎没後50年記念出版

## 谷口善太郎小説集・もうひとつの加賀物語

(略称: 谷善小説集)

白山連峰からの雪解け水が伏流水となって届く山麓。そこに生きるひたむきな人々。

1910~1930年代、押し寄せる時代の波に侵され、流され、抗う農村。

少年期をそこに生きた著者の筆運びが温かい珠玉の小作品集。

「綿」「踊る」「庄五郎おやじ」「お千代」「荷を挽く馬」

「少年」「土地はだれのものか」の7作品。

作品それぞれに簡明な解説付き。時代併記の年譜。

文学散歩にも使える作品舞台地図、谷口善太郎小説へのやさしくわかり易い入門書です。

谷口善太郎没後50年を記念して2024年6月8日発売。

著者: 谷口善太郎(ペンネーム~須井一、加賀耿二)

解説: 岩渕剛(日本民主主義文学会・常任幹事)

挿絵: 宮田耕二(石川美術会創立会員)

体裁: B6サイズ、約210頁

定価: 1,500円



表紙はイメージです。

## 谷口善太郎没後50年記念誌・会の記録「綿」 (略称: 記念誌「綿」)

編集: 谷口善太郎を顕彰する石川の会(略称: 谷善の会)

構成: ご挨拶と「谷口善太郎没後50年へのメッセージ」

活動記録「1974年~2024年、県下での顕彰と谷善の会の活動記録」

記念事業「谷口善太郎没後50年記念事業の

ご案内とその取り組みの記録」

寄稿集「谷口善太郎とその作品の魅力」

蔵書一覧「県下図書館の谷口善太郎作品を

掲載する蔵書一覧」

体裁: A4サイズ、約40頁。

発売: 2024年6月8日

価格: 500円



表紙はイメージです。

2024年2月1日

谷善小説集、記念誌「綿」応援コースの先行販売を開始!

先行販売期間(2024年2月1日~5月31日)の注文品の納品について

郵送の注文品は 5月上旬~6月8日までにお届けいたします。

手渡しの注文品は 5月12日~5月31日に谷善の会・出版部にてお受け取り下さい。

### 《注文方法》

●先ず代金をお支払い下さい。ゆうちょ銀行口座から下記口座へのATM送金をお勧めします

代金振込口座 ゆうちょ銀行 記号:13190 番号:21322551 名前:カトウ シゲコ

●次に注文書をご提出下さい。FAXでの注文書提出をお勧めします:

提出先 谷善の会・出版部 加藤重子

ご住所 〒920-2111 石川県白山市鶴来朝日町55

□・FAX ☎ 076-272-0130 FAX 076-272-0130

※紹介者に入金と注文書提出を依頼される方は注文書に代金を添えて紹介者にお渡し下さい。

### 《注文書》

●応援コースは谷善小説集の出版や図書館への寄贈等の普及活動への応援です。

注文者氏名	注文年月日	年	月	日
ご住所・電話	〒			
谷善小説集	1冊	1,500円(手渡し)	冊	金額 円
	1冊	1,700円(郵送)	冊	金額 円
記念誌・綿	1冊	500円(手渡し)	冊	金額 円
	1冊	700円(郵送)	冊	金額 円
応援コースA	1口	3,000円(谷善小説集1冊進呈)	口	金額 円
応援コースB	1口	5,000円(谷善小説集2冊進呈)	口	金額 円
代金支払い	支払い日	年	月	日
支払い方法	口座振込 / 郵送 / 持参 / 紹介者に依頼	→いずれかに○を印す		
紹介者名	〈紹介者は谷善の会・会員に限ります〉			

※紹介者に入金と注文書提出を依頼される方は紹介者名を必ずご記入下さい。